

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月19日

2021年度に向けた教育研究目標

教育研究目標4「総合的な学生支援の実現」

主管部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)	担当部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)
------	------------------------	------	------------------------

【(1)総合的な学生活動支援の拡充：①学生相談や発達障がい、障がいを持つ学生への総合的な支援体制の拡充・整備】

(タイトル)

①-(a) 学生支援相談室の面談環境の改善

(狙い内容)

西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパスにおいて学生数の増加等に伴い、面談数の増加など面談環境は劣悪になってきている。このことを解消するため、面談環境の改善を図っていく。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパスにおける本学の学生数及びカウンセラー数に見合った面談環境の整備する。

2. 達成度評価

評価指標	西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパスにおける学生支援相談室の面談環境を整備するため他大学等にヒアリングを行いその状況を踏まえ新たに立案・実施していく。	評価尺度	A：面談室の確保 B：関係部局に対する必要性の理解を促す C：他大学へのヒアリングを含め面接環境の調査 D：現状のまま
------	--------------------------------------------------------------------------	------	----------------------------------------------------------------------

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 検討できず	C 他大学に調査及び報告を行った	C	B	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	D	C	A				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	検討できず	他大学に調査及び報告 を行った	実績 面談室を 2部屋増設				

【2017年度の進捗状況について】

学生支援相談室(西宮上ヶ原キャンパス)には、面談室が2部屋設置されているが、利用学生が年々増加しており、慢性的な面談室不足が続いている。2017年度は、状況が更に悪化し、「カウンセリング1ヶ月待ち」の時間帯が多くを占め、利用者の足が遠のいてしまう状況が続いていた。そのため、総務・施設管理部に協力を得ながら、学生支援相談室の移転先を検討したが見つからなかったため、現在の学生支援相談室の改修工事(案)の検討を進めた。改修工事(案)は、事務スペースを縮小して面談室を2部屋から4部屋に増設、フリールールの充実、という内容であった。この改修工事(案)の提案が学長室会および法人本部会議で承認され、2017年8月9日～31日まで改修工事を実施した。現在は4部屋の面談室でカウンセリングを実施している。次年度以降は、ソフト面を中心に面談環境等が更に改善される新たな目標を検討する。

2017年度の実績状況の確認

2017年度の実績は、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

<教育研究目標4(1)～(4)全体に対する評価委員からのコメント>

- ・(1)総合的な学生生活支援の拡充、(2)スポーツ・文化活動等と勉学の両立を目指す支援強化、(3)奨学金制度の充実に加え、(4)個性・能力にあったキャリア教育と就職支援の充実が下位目標に追加されました。大学のユニバーサル・アクセスを可能にし、全ての学生の円滑な修学を可能にし、学生生活を守るためには、相談活動の充実はもとより、受益者の立場に立った施設設備の整備と人的支援体制の構築が求められます。(A)

- ・次は面談内容の改善が期待されます。(B)
- ・学生支援相談室の増設が実現できた点は評価できます。今後は進捗状況に記載があるように、ソフト面を中心とした面談環境の充実に向けた取り組みが期待されます。(C)
- ・面談室の確保ができたのは評価できますが、面談環境には物理的な対応以外の面も重要かと思しますので、評価項目を追記いただければと思います。(D)
- ・面談室の確保により、面談室の有効利用のための利用記録・統計の整備が期待されます。(E)
- ・ソフト面の改善に向けた新たな目標の設定が期待されます。(F)
- ・学生支援相談の環境整備は大変重要で、状況の改善が図られたことは評価できます。(G)
- ・面談環境の改善もあり、評価できます。ソフト面も含めた更なる改善が期待されます。(H)
- ・面談環境改善の取り組みを着実に進め、ハード面の環境が整えられたことは評価されます。引き続きソフト面での改善を期待しています。(I)

主管部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)	担当部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)
------	------------------------	------	------------------------

【(1)総合的な学生活動支援の拡充:①学生相談や発達障がい、障がいを持つ学生への総合的な支援体制の拡充・整備】

(タイトル)

①-(b) 学生による自傷他害などの緊急事態への対応及び多様化する発達障がいのある学生への対応

(狙い内容)

自傷他害などの緊急事態や多様化する発達障がい学生支援の内容検証については、総合支援センター委員にサポートいただいている。しかし、各センター委員は兼担であるため、常に必要な支援・指示等が可能とは限らない。そのことを解決できるように検討する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

自傷他害などの緊急対応や発達障がい学生支援を迅速に行えるような体制作りを検討及び実施する。

2. 達成度評価

評価指標	他大学における緊急対応のための体制や人事を検証し、新たな体制に対する提案・検討を行い、それを実現するため大学に提案・実施。	評価尺度	A : 新たな体制を実施 B : 新たな体制を検討 C : 他大学へのヒアリングを実施 D : 現状のまま
------	---------------------------------------------------------------	------	----------------------------------------------------------------

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D 検討できず	C 他大学への調査及び 報告を実施	B	B	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	C	実績	B			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	検討できず	他大学への調査及び報 告を実施		主任カウンセラー の配置を提案			

【2017年度の進捗状況について】

自傷他害などの緊急対応や発達障がい学生支援を迅速に行えるような体制作りとして、月～金曜日まで常駐できる主任カウンセラーの配置の検討を進めた。特に主任カウンセラーを配置した場合、「危機ケースなどの専門的な最終判断」や「カウンセラーの取りまとめ」等に迅速に対応できることが見込まれる。この提案は、学長室会および法人本部会議で承認され、2018年度より主任カウンセラーが採用される予定である。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・カウンセラーの配置を早期に実現することが望まれます。(B)
- ・他大学の先進事例を調査した上で、常駐できる主任カウンセラーの2018年度からの配置を実現した活動は評価できます。今後は関連部署のサポート体制などの、さらなる強化策の検討が期待されます。(C)
- ・カウンセラーの配置を提案にとどまっていますが、カウンセラーの配置をした結果、どのような取り組みをするのかも含めて、指標化を検討してはどうでしょうか。(D)
- ・最終目標実現の設定時期が遅くないかの検討が期待されます。(E)
- ・主任カウンセラーの配置等により、より充実した支援体制が整備されることが期待されます。(F)
- ・着実に対応が進んでいる点が評価できます。今後、更なる支援体制の充実に向けた継続的な改善が期待されます。(H)
- ・面談スペースの改善と合わせて、カウンセラー配置の検討も進んでいることは評価されます。継続して取組み着実に改善が行われることを期待しています。(I)

主管部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)	担当部局	学生活動支援機構 (総合支援センター)
------	------------------------	------	------------------------

【(1)総合的な学生活動支援の拡充:①学生相談や発達障がい、障がいを持つ学生への総合的な支援体制の拡充・整備】

(タイトル)

①-(c) 障がいを持つ学生への支援体制の拡充

(狙い内容)

2016年度より施行される差別解消法に対応するため、2015年12月に策定予定の基本方針に従い、学生のニーズに合った支援内容を検証・対応を行う。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

現在支援を行っている支援内容に加え、学生のニーズに応じられるよう、コーディネータをはじめ職員への新たな知識などの資質向上及び新たな支援内容の検討を行い、支援体制を検討・実施を行う。

2. 達成度評価

評価指標	障がい学生の求める新たな支援を検討・導入する。ただし、導入した支援内容については、検証を行い、不安要素を改善する。ただ、改善などは常に行う必要があるため、常に新たな支援についての導入・改善が必要である。	評価尺度	A : 新たな支援を導入及び不安要素の改善 B : 本学における新たな支援を検証 C : 新たな支援の情報収集及び研修などの参加 D : 現状のまま
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	-------------------------------------------------------------------------------------

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		C	B 新たな支援を検討及び検証を行った	B	A	A	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	C	B	実績 新たな支援の検証 を行った。				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)		新たな支援を検討及び 検証を行った					

【2017年度の進捗状況について】

①発達障がい学生への就職支援の検証
現在、障害者の雇用の促進等に関する法律によって、企業は法定雇用率以上の障害者を雇用しなければならないということが義務付けられているが、発達障がい者の方の就職は非常に厳しい状況が続いている。本学においても、発達障がい学生の就職先がなかなか見つからず非常に苦慮している。今年度はその対策として、発達障がい学生を対象とした就職支援のプログラムやセミナーを試験的に25回実施した。その結果、昨年度よりも進路決定学生が2名増加した。また、保証人からも「障害者雇用枠の悪いイメージが払拭された。」など、非常に好評であった。次年度以降は、就労支援機関等に協力を得ながら、今年度よりも更に内容を充実させたプログラム等を実施する予定である。また、人手不足により実施できなかった発達障がい学生への就労支援面談や企業や特例子会社等の新規開拓にも取り組む予定である。

②教室内遠隔情報保証(タブレットを利用して利用学生とパソコンテーカーの座席が離れても情報が提供できる)の検証
聴覚障がいの学生への情報保証として、利用学生の隣席にパソコンテーカーを配置しているが、各授業での座席確保が困難な状況になってきている。また、利用学生がパソコンテーカーを利用していることが知られたくないという要望もあがっている。そのため、試験的に教室内遠隔情報保証を導入した。導入当初は、ごく稀に電波が途切れることがあったが、現在は電波状況も安定しており、利用学生からも継続して利用したいとの要望も出ている。次年度以降は正式に教室内遠隔情報保証を導入する予定である。また、現在、教室外遠隔情報保証(タブレットを利用して教室外にいるパソコンテーカーが利用学生に情報を提供する)の検証も進めている。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?	→ はい・いいえ
------------------------------	----------

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・ 障害は個人差があり、ニーズにも個人差があります。体制整備は必要ですが、第一歩に過ぎません。個々人のニーズに応じた対応が進められることを期待します。(B)
- ・ 障がいを持つ学生に対しての新たな支援の試行、検証を行うなど、積極的に施策を実施しているとみられる点が評価できます。(C)
- ・ 課題として発達障害学生の就職支援ということが検証できたことはよかったですと思います。今後キャリア支援という観点で、支援体制を検討いただければと思います。(D)
- ・ 「1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)」での評価指標がやや抽象的であり、遅くとも情報収集がある程度できた段階で、もう少し具体的な支援策についての導入・実施目標を再設定することが期待されます。2017年度の進捗状況に記載の2点以外には、障がい学生について対応すべき課題はないということでしょうか。(E)
- ・ 順調に進んでいます。(F)
- ・ 引き続ききめ細やかな支援の継続的な実現、維持が望まれます。
- ・ 今後の進展として、障がいを持つ学生への支援にとどまらず、バリアフリーな社会の実現に向けた全学的な意識向上の取組なども考えられます。(H)
- ・ 発達障がい学生を対象とした就職支援プログラムの効果検証結果については、是非学内関係部局で情報を共有し、今後の支援施策に繋げていただきたいと思います。(I)
- ・ 目標の達成度評価で、指標の記述が日本語としておかしくはないでしょうか。
- ・ 「検証を行い不安要素を改善を行う」→「検証を行い、不安要素を改善する」などが適切ではないでしょうか。(J)

主管部局	学生活動支援機構	担当部局	学生活動支援機構
			情報環境機構
			教務機構
			研究推進社会連携機構

【(1)総合的な学生活動支援の拡充:②安全・安心で快適な学生生活を送ることができる環境の整備】

(タイトル)

②-(b) 学生のマナーやコンプライアンス意識の向上による安全・安心で快適な環境の推進

(狙い内容)

学内外において、他者に迷惑をかける・かけられることがない学生生活を送ることができる環境を整える。まずは、迷惑をかけない学生を育てるための指導・育成が行える教職員を養成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学内でのルール・マナー違反行動に対して、全教職員が注意・指導する。
学生自ら学生へのマナー向上を呼び掛ける。

2. 達成度評価

評価指標	学内・学外における学生のルール・マナー違反行動の減少	評価尺度	A : 学外からの苦情件数が2014年度に比べて20%減 B : 学外からの苦情件数が2014年度に比べて10%減 C : 学外からの苦情件数が2014年度と同等 D : 学外からの苦情件数が2014年度より増加する。
------	----------------------------	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		C 苦情件数 60件	A 苦情件数 84件 2016年9月時点	C	C	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	C	A	見込み	A			
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	苦情件数 60件	苦情件数112件 2017年1月時点		苦情件数 42件 2018年1月時点			

【2017年度の進捗状況について】

相変わらず、授業開始直後の苦情件数が多い。個人・団体の特定できるものについては、個別呼び出しをかけ、厳しく注意をしている。また個人の特定の難しいものについては、教学WEBを通じて、注意喚起を行っている。ただ、対象が特定されていないものについては、高等部・中学部、近隣校の苦情も含めて、当機構に寄せられ、件数に含まれている。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み: ソフト面でのマナー重視の活動は勿論大事ではあるが、ここ十年学生数が飛躍的に増大している中、通学アクセスはほとんど、改善がなせず、苦情の増加につながっている。住宅地に存在するキャンパスでアクセスの改善は困難であるが、抜本的な改善が必要である。

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

2017年度不正防止計画 <https://www.kwansei.ac.jp/kenkyu/attached/0000121393.pdf>

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・住宅街の中にあるキャンパスでは何かと大変なことだと拝察しますが、計画の推進に期待します。(B)
- ・日頃の地道な学生向けの注意などの活動が重要であり、それに関する対応は取れているようにみえますが、学生への情宣(学部オリエンテーションとの共同など)、教職員への伝達、ICT関連の学生向けセミナーの開催などの働きかけの活動はもっと早期に展開できるように思いますので、できるところから取り組んでいただきたいと思います。(C)
- ・苦情件数が減少しているのはいい傾向だが、何か具体的な取り組みを始めたのか、毎年の積み重ねの効果がでてきたのかを明確にしていただけるとなおよい。(D)
- ・行動計画の目標が達成のための施策が着実に計画、実施されることが求められます。(E)
- ・これから社会に出ていく学生には、最低限のルールとマナーを身につけておくことが大切です。あらゆる施策を打つことで、学生自身にその大切さを伝えていくことが望まれます。(G)
- ・マナーの向上と併せて、駅までのより安全な動線の開発、学生への具体的な指示、誘導場所や方法など、多方面から改善できるところがないか検討することも必要と思われます。
- ・課題が認識されている点が評価できます。今後は、抜本的な改善について、具体的な検討が期待されます。(H)
- ・昨年度の評価コメントにもありますが、行動計画②の指標については見直す必要はないでしょうか。
- ・学生委員会、教授会で報告したとして、その知識が浸透しているか、注意・指導の意識を持つにいたっているかは検証が必要です。(J)

主管部局	ハラスメント相談センター	担当部局	ハラスメント相談センター
			人事部
			教務機構

【(1)総合的な学生生活支援の拡充:②安全・安心で快適な学生生活を送ることができる環境の整備】

(タイトル)

②-(c)ハラスメントの防止及び解決

(狙い内容)

本学は、すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害、ハラスメントをも容認することなく、学生と教職員が個人として尊重され、人権を阻害されることなく就学及び就業できるよう、ハラスメントのないキャンパスを創る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害、ハラスメントをも容認することなく、学生と教職員が個人として尊重され、人権を阻害されることなく就学及び就業できるよう、ハラスメントの防止及び解決をめざす。

2. 達成度評価

評価指標	研修会受講者(教職員・学生)のハラスメントに関する理解度	評価尺度	A : 75~100% B : 50~75% C : 25~50% D : 0~25%
------	------------------------------	------	------------------------------------------------------

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点			B 研修会、事例検討会実施後にアンケートをとり、理解度を測っていく予定(10月以降)	B	A	A	A	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D		A	実績 A	B	B	A	A
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)		「理解した」「ほぼ理解した」が90%以上		「理解した」「ほぼ理解した」が90%以上			

【2017年度の進捗状況について】

現状アンケートの回答項目が「理解した」「ほぼ理解した」「どちらともいえない」「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の5項目であるが、今後は当該項目を「○」について理解できたか?」等細分化し、実質的に理解度を測ることができるものに改善を行う。
アンケート内容はその都度分析を行い、改善点を次回以降の研修内容に反映する。
研修への参加人数を評価尺度に入れることも検討したが、実質的な理解度ををはかるためには内容についての評価が必要かと判断した。一方で新規行動計画に「ハラスメント相談センター便り」の発行を取り入れ、ひろくハラスメント防止のための啓発活動を行うこととした。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → (はい)・いいえ

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

<https://www.kwansei.ac.jp/c hc/>

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・ ハラスメントの理解は全教職員・学生に必要です。研修の開催回数より参加者数の方が指標として重要ではないでしょうか。検討が望まれます。(B)
- ・ ハラスメントに対する学内の理解の広がりが重要だと思いますので、ハラスメントセンター便りの年4回の発行などをベースに、啓発を拡大させていくことが重要です。(C)
- ・ ハラスメントの評価として、研修の参加者の理解度だけではなく、研修の参加人数も追記いただきたい。他大学でも様々な事例も出てきているので、事例研修会を有効に活用してほしいし、研修だけではなくWEBなどでも注意喚起してほしい。(D)
- ・ ハラスメントセンターの設置によってハラスメントへの対応体制は整いましたが、ハラスメントの発生自体は抑制されていないことが、むしろ明らかになりつつあり、更なる効果的な防止策の検討が求められます。(E)
- ・ 行動計画②について、新規の行動計画にもかかわらず、すでにAを達成されていますので、別途研修会の内容面を評価する指標の設定等が期待されます。(F)
- ・ 研修会、事例検討会実施後のアンケート結果を評価指標としているため、研修会を受講していない構成員についても、注目する必要があると思われます。(H)
- ・ 行動計画②では、参加者数を評価指標に加えるとより良いと思います。(H)
- ・ ハラスメントに関する理解度を高める取組みが進められていますが、実際に学内のハラスメント件数が増えているのか、減っているのか、気になるところです。(I)

【(2)スポーツ・文化活動等と勉学の両立をめざす支援強化：①課外活動の教育的価値を踏まえた指導・育成・活動環境の整備・拡充と活性化】

(タイトル)
課外活動の教育的価値を踏まえた指導・育成・活動環境の整備・拡充と活性化

(狙い内容)
課外活動の教育的価値を踏まえた指導・育成・活動環境の整備・拡充と活性化を図るために、課外活動を行う学生(団体)が、自らコンプライアンスを徹底し、危機管理意識を高めるように指導、教育する。講演会や研修会の実施、定期的な連絡会を実施し、意見交換や情報共有を常に行える体制づくりを目指す。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)
課外活動団体の指導体制に対する支援、課外活動団体所属学生への学修支援、活動環境整備による支援により、社会性と豊かな人間性を兼ね備えた人材が育成される。

2. 達成度評価		評価尺度
評価指標	研修会参加団体数	A : 全総部、傘下団体(計83) B : 体育会全傘下団体(42)、文化総部(35) C : 体育会全傘下団体(42) D :

3. 年度毎の目標値		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		D 未実施	C 体育会のみ実施	C	C	B	B	A
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	C	C				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	未実施	体育会のみ実施	実績 体育会指導者のみ				

【2017年度の進捗状況について】
昨年、体育会幹部学生を対象にコンプライアンス研修会を実施したが、今年度は指導者対象研修会を9/30・10/4に実施した。学生の学修状況・生活状況の把握は、現在、設置の検討をしている課外活動の統括部局で施策を検討する。今年も体育会傘下、全部にヒアリングを実施しているが、政策立案には至っていない。行動計画⑤については、次年度以降目標を再考する。(評価専門委員・第三者評価結果(案)への対応)
これまでは課外活動との位置づけであったが、これからは正課外教育として捉え、コンプライアンス研修等安全管理への取り組みを昨年度から開始した。昨年度、体育会幹部学生を対象として、コンプライアンス研修を実施したが、事務体制の整備はこれからであるので、今年度やむを得ず指導者のみの研修会を実施した。まずは比較的体制整備のできている体育会を対象としているが、今後、体育会幹部学生、指導者、文化系団体等対象を拡大する。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ → はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- 課外活動は学生主体で実施されており、大学はあまり関与していない様子が見てとれます。学生の主体性を尊重するという方針は理解しますが、課外活動での不祥事の発生もあり、スポーツ入試を実施されている大学としては、コンプライアンスの徹底などについて、関与を強めて行かれることを期待します。(B)
- 課外活動の充実度は学生から見ると、豊かな大学生活を送る上で重要な要素となります。それらの活動の環境の整備、部活の指導者への研修などを通じて大学としてのサポートが進められている点が評価できます。(C)
- 課外活動の指導者研修を実施してAになったことは評価できる。来年は進捗を目に見えるような指標を開発してほしい。(D)
- 引き続き目標の達成と新たな目標の設定が期待されます。(E)
- 新たに設置される課外活動の統括部局において、この分野における活動が活性化することが期待されます。(F)
- 指導者へのコンプライアンス研修を実施していることは、大変意味のある取り組みで評価できます。
- 体育会以外の公認団体への危機管理担当者の設置が期待されます。(G)
- 行動計画①では、評価尺度の設定が望まれます。
- 行動計画③の、参加者数の昨年との差には何か原因があるのか気になります。(H)
- 今年度は、体育会指導者研修のみ実施し、幹部(主将、副将、主務)向けの研修は行わないように読み取れますが、学年進行によって各部活内の幹部が毎年入れ替ること考えると、このようなコンプライアンスに関わる研修は、毎年継続して実施していくことが重要ではないでしょうか。また、文化総部の各団体に対する取組みはどのように考えているか、記述があれば尚良いと考えます。(I)

主管部局	ボランティア活動支援センター	担当部局	ボランティア活動支援センター 学生活動支援機構
------	----------------	------	----------------------------

【(2)スポーツ・文化活動等と勉学の両立をめざす支援強化:②ボランティア活動環境の整備と活性化】

(タイトル)
ボランティア活動環境の整備と活性化

(狙い内容)
関西学院を中心とするボランティア活動の活性化を進め、地域との開かれた関係を築くことによって、スクールモットー”Mastery for Service”を体現する世界市民の育成を図る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

2016年度に設置予定の「ボランティア活動支援センター(仮称)」が中心となって、学生のボランティア活動環境を整備するとともに、学生等のボランティアに関する様々な活動を支援することで学院内におけるボランティア活動の活性化を促す。

2. 達成度評価

評価指標	① ボランティア活動支援センター(仮称)の設立状況 ② 支援室におけるボランティアのコーディネート人数	評価尺度	A : ①センターが設立、稼働する ②400以上 B : ②300~399 C : ②250~299 D : ①内容等の検討が継続される ②200~249
	<変更時記入欄> ・ヒューマン・サービス支援室における(専従ボランティアコーディネーター及び学生ボランティアコーディネーターによる)相談件数		<変更時記入欄> A : 300件以上 B : 250~299件 C : 200~249件 D : 200件未満

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		①D ②D	①A ②D	① — ②C	① — ②C	① — ②B	① — ②B	① — ②A
		①:— ②:212	①:2016年4月、センターが設立され、活動開始。 ②:D(230)	①:— ②:260	①:— ②:290	①:— ②:340	①:— ②:380	①:— ②:410
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	①D ②D	①A ②D	見込み C	B	B	A	A
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	①:— ②:212 *2015年度には、センターは設立されておらず、この数字は、前進団体でのイベント参加者数	①:— ②:109	見込み 234件	260件	280件	300件	320件

【2017年度の進捗状況について】

2016年4月に設立されたボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室の活動も2年目に入り、支援室に配属された専従ボランティアコーディネーター(1名)や支援室委員の教員(3名)、職員スタッフが協力し、ボランティアセンターの使命である、ボランティアへの啓発、ボランティアに関心を持っている学生とボランティアを求めているニーズを結びつけるコーディネート活動、そして被災地でのボランティア活動(熊本地震支援活動:2017年度は4回の派遣予定)等の取り組みを進めている。研修を受けた学生に対して「学生ボランティアコーディネーター」の委嘱を行い、教職員スタッフと学生ボランティアコーディネーターとで定期的にミーティングの機会を持ち、学生たちの自主性を尊重しながら活動計画に対するアドバイスを行い、支援室会議にも一部参加してもらいつつ、支援室活動の充実をともに目指している。「2016年度第三者評価結果」として、「実際のボランティアの参加者数なども今後の指標として検討出来るとなよいよ」とのアドバイスをいただいたが、コーディネート時の聞き取りで、事後報告を促すようにしていきたいと考えている。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

ボランティア活動支援センターが設立される前の2015年度に指標としてあげた「コーディネート数」としての報告数字は、啓発イベント参加者数的な意味合いが強く、センターが設立された2016年度以降の活動達成度をはかる指標としては、センターとしての活動を行っているヒューマン・サービス支援室において、実際にボランティア(活動)に関する相談を受けた件数ではかかっていくことにした。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・ スクールモットーを体現するための重要な活動を支援しようというもので、とりわけ、ボランティア活動に対する積極的な支援のためのボランティア活動支援センターの設置は、同活動の教育的な価値を重んじている貴学の特徴として、大いに評価できます。しかし、これまでも指摘した点ですが、勉学は正課で、自発的な学生の活動は正課外という古典的な位置づけは変わっていないように見受けられます。正課外活動を重視するならば、これが可能になる施設設備の整備や支援体制の強化を図ることは勿論、教育システム全体の中での位置づけを、もっと明確に示す必要があると思います。(A)
- ・ スクールモットーを体現するボランティア活動は重要です。ボランティアの参加人数は、キリスト教系の学校では延数では余り意味がなく、純計は算出困難であり、こうした指標になることは理解できません。順調に計画が進展することを期待します。(B)
- ・ 研修を受けた学生に「学生ボランティアコーディネーター」を委嘱し、協力を得ながら推進している点が評価できます。(C)
- ・ ボランティアセンターの設立がなされたことは評価できる。設立がなされたことからより活動を本格的にするに当たって、指標も見直しも行ってほしいし、さらに上の目標を目指してほしい。(D)
- ・ 支援センターの活動内容についての新たな目標設定が検討されることが期待されます。(E)
- ・ 順調に進展していることが伺えます。(F)
- ・ 積極的に取組が進められており評価できます。今後の進展に期待が高まります。(H)
- ・ 今後、ボランティアに関する相談件数を把握して、活動の達成度を測っていくことは良い試みであると思います。活動がますます活性化することを期待しています。(I)

【(3)奨学金制度の拡充】

(タイトル)

奨学金事業を通じ、模範となる学生を顕彰し、また経済的支援を必要とする学生を支援することにより、学生の育成を行う。

(狙い内容)

奨学金事業を通じ、模範となる学生を顕彰し、学生へのインセンティブとする。また経済的支援を必要とする学生を支援することにより、安心して学生生活を送ることができるようにする。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

- ・奨学金制度を改正する。
- ・学部支給奨学金制度を改正し、SGH・SSH奨学金を設置する。
- ・大学院支給奨学金制度を改正し、一部の後期課程学生の学費を実質無償化する。

2. 達成度評価

評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度の改正 ・学部奨学金制度の改正およびSGH,SSH入試者対応の奨学金の設置 ・大学院奨学金制度の改正(後期課程学生の一部は実質学費無償となる) 	評価尺度	A : 新奨学金制度を実施した B : 新奨学金制度の規程を制定した C : 制度について検討した D : 制度の改正ができない
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	---------------------------------------------------------------------------

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		C 検討を開始した	C SGH/SSHは規程化まで行った	A 新奨学金制度実施				
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	C	C	実績 SGHは11名の入学者を得た。 大学院は施策全体で検討				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	検討を開始した	SGH/SSHは規程化まで行った					

【2017年度の進捗状況について】

新規のSGH/SSH奨学金については実施し、11名の入学者を得ている。大学院の学費・奨学金については、大学院施策全体の中で学費の額も含めて、検討することになった。特に文系では他大学と比べて学費負担が高くないが、理系の大学院において大学院生の経済的負担が大である。修了後の進路等総合的に検討することとなった。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・コメントする段階ではありませんが、事業期間が終了しても、恒常的な制度存続を期待します。(A)
- ・制度の創設だけでなく、対象とする人数など、規模についても議論が必要ではないでしょうか。(B)
- ・奨学金制度は大学、大学院の差別化の一要素となってきたため、その充実を図るための検討が求められます。(C)
- ・国の動向を注視する項目と思う。(D)
- ・奨学金制度の効果について検証できる評価指標の設定を検討することが期待されます。(E)
- ・SGH/SSHが当初の想定どおり運用されていることは評価されます。大学院奨学金制度については、今後の教育研究目標6の「大学院の充実」と関連して十分に検討されることが望まれます。(I)

【(4)個性・能力にあったキャリア教育と就職支援の充実:①学生の満足度向上】

(タイトル)
個性・能力にあったキャリア教育と就職支援の充実により、就職を希望する学生が納得、満足し、かつ高い就職実績につながる支援を強化、充実する。
→個性・能力にあったキャリア教育と就職支援の充実により、就職を希望する学生の満足度を向上させる。

(狙い内容)
進路決定は、学生が悩みながら、不安を抱え、紆余曲折しながら自ら行うものである。決定までには多くの課題を抱え、結果的に第一希望が叶うことばかりではない。しかしながら、自身や自身の活動を振り返り、最終的に納得し、満足できるよう学生を支援することがキャリアセンターの最も重要な役割である。満足度は就職実績にも関係するので、評価指標は、内定企業への満足度、就職率等とする。
→
進路決定は、学生が悩みながら、不安を抱え、紆余曲折しながら自ら行うものである。決定までには多くの課題を抱え、結果的に第一希望が叶うことばかりではない。しかしながら、自身や自身の活動を振り返り、最終的に納得し、満足できるよう学生を支援することがキャリアセンターの最も重要な役割である。そして、高い就職実績は満足度を高めることに繋がるため、そのための支援を行う。
達成度評価は「内定企業への満足度」「就職率」等とする。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学生が、キャリア教育並びに就職活動の結果に高い満足度を示し続ける。

<変更時記入欄>

学生が、キャリア教育並びに就職活動の結果に高い満足度を示し続けている。

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

文言整理

2. 達成度評価

評価指標	①学生の「満足度」《内定企業に対する満足度》 「非常に満足」「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「おおいに不満」の7段階の評価の内、「非常に満足」「満足」の割合 ②就職を希望する学生が就職できる割合＝「就職率」《就職決定者数÷就職希望者数》 ③戦略的な指標のため非公表	評価尺度	A:3指標全てにおいて目標値を上回る B:2指標全てにおいて目標値を上回る C:1指標のみ目標値を上回る D:3指標すべてにおいて目標値を下回る
	<変更時記入欄> ・①②③に④を加える。 ④戦略的な指標のため非公表 ・なお、①を次のとおり変更する。 学生の「満足度」《内定企業に対する満足度》 「大変満足」「大体満足」「あまり満足していない」「全く満足していない」の4段階の評価の内、「大変満足」「大体満足」の割合		<変更時記入欄> A:4指標全てにおいて目標値を上回る B:3指標全てにおいて目標値を上回る C:2指標全てにおいて目標値を上回る D:1指標しか目標値を上回らない、もしくは全ての指標が目標値を上回らない

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		①86.2% ②98.5%	①90.0%以上 ②96.0%以上	①90.0%以上 ②96.0%以上 ③は戦略的な指標のため、目標値は非公表	①90.0%以上 ②96.0%以上	①90.0%以上 ②96.0%以上	①90.0%以上 ②96.0%以上	①90.0%以上 ②96.0%以上
		—	B 下記の【2016年度の進捗状況について】の通り					
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	—	A	A				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> ①86.2% ②98.5% ③④:非公表	①96.0% ②99.2% ③④:非公表	見込み ①93.0%以上 ④:非公表 下記の【2017年度の進捗状況について】の通り	①93.0%以上 ④:非公表	①93.0%以上 ④:非公表	①93.0%以上 ④:非公表	①93.0%以上 ④:非公表

【2016年度の進捗状況について】

2016年度の結果は2017年7月にしか判明しないが、各種プログラムの進捗状況と内定状況を勘案すると順調に推移していると判断する。特に毎年、学生達から対策要望が多い筆記試験については、2016年度は一番参加人数が多い第1回キャリアガイダンス内で実施し(3500名以上が参加)、早期対策を促した。筆記試験は、面接選考に繋がる関門であるため、満足度向上に向けては、重要な要因であると捉えている。

【2017年度の進捗状況について】

昨年同様の説明となるが、年度の結果は毎年①②については5月中旬でないと判明しない。現在(9月)、学生の進路調査を実施中であり、それを受けて活動中の学生の支援を年度末まで行っていく。②については、毎月のモニター調査では昨年よりも高い率を示しているため順調に推移していると考えている。③④については戦略的な指標のため、言及しない。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

昨年度の第三者評価において、アシスト目標はキャリアセンター独自が考える目標で良いのかどうか、というコメントを受け、アシスト目標を教育研究目標4「総合的な学生支援の実現」に移動した。
従って、○達成目標の評価指標を3つから4つに変更し、評価尺度もそれに合わせて変更した。
○また、アンケートの設問を7段階から4段階に変更したことから、評価指標の表現を変更すると共に、目標値も変更した。
なお、各目標値は、過去の実績を勘案して設定しており、現在の好景気、売り市場が21年度まで続くことを仮定したものではない。

2017年度 of 取組み状況の確認

2017年度 of 取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?

→ はい・いいえ

＜評価専門委員・第三者評価結果＞ 2017年12月15日公示

- ・ 学生の満足度、就職率などを成果指標として定め、キャリア・ガイダンスを含めた早期の対策に力を注いでいる点は評価できます。キャリア・ガイダンスへの学生の関心の高さは、学生への進路保証がいかに大学にとって重要であるかを物語るものです。引き続き、一層の取組を期待します。(A)
- ・ アシスト目標から全学的な目標に移されたこと、評価指数④を加えられたことは評価できます。行動計画の記載が困難であるという理由も理解できます。(B)
- ・ 本学の就職率は高く、また学生の内定企業に対する満足度も高く、現状ではそれが維持されている点が評価できます。(C)
- ・ 全体の就職率などの高さについては十分な実績があり、評価できると思います。別の項目で発達障害の学生の就職が難しいなどの課題もあり、留学生などの就職状況も課題があると思います。よりきめ細やかな支援を是非実現していただきたいと思います。(D)
- ・ 引き続き目標の達成に向けて工夫をすることが期待されます。(E)
- ・ 実績については高く評価できますが、今後の更なる進展のためにも、行動計画については、年次報告とは異なる視点から、自己点検・評価として、より適切な行動計画および評価指標を設定されることが望まれます。(H)
- ・ 引き続き、学生の満足度や就職率は高い状態を維持していることが分かります。出口(就職)に関する施策は今後の大学の教学施策と密接に関わるものですので、十分な議論を行い全学的に情報と認識を共有しながら進められることが望まれます。(I)